

平成13年度学校企画実施計画書

平成13年6月29日
教諭 三宅 貴久子

1. 企画テーマ名称

主 題： 球体パノラマ画像を活用した共同学習の設計と展開

プロジェクト名：体験！探検！発見！ 瀬戸内デジタルマッププロジェクト

2. 企画概要

昨年度は、岡山県の三大河川の一つである「旭川」を舞台として、【実施条件が異なる学校間交流学习の拡張】及び【インターネットと親しみながら交流学习を進めるためのWeb環境の構築と研究成果を他 地域へ普及促進できるWebツールの開発】の2つを目的として、Eスクエア2の協働企画のプロジェクトに参加し、実践研究に取り組んだ。

実際には、旭川デジタルマップの完成というゴールをめざし、子どもたちは、上・中・下流域の6校（中心校3校・ピギナー校3校）でプロジェクト型の交流学习を展開した。この6校は、学年、学習環境、交流学习の経験及びインターネットの活用実態の差など、様々な違いを乗り越えて、自分たちのもてる力を発揮できる場面で活躍しながら、ゴールを目指したのである。この学習のねらいは、情報活用能力の育成と地域理解の深化と郷土への愛着心の育成である。個々の興味・関心・問題意識のもとにテーマを設定し、自分の調べた身近な地域環境の実態について、デジタルな情報カード、電子掲示板等のWebツールを駆使して情報交換をする。そして、他地域との相違点に気づき、身近な地域の環境に対しての愛着を高める。その結果、短期間のプロジェクトではあったが、個々の子どもたちなりに活動の成就感を味わえたとともに、情報活用能力を向上させることはできた。しかし、郷土愛を醸成させるまでにはいかなかった。それは、プロジェクト型の交流学习の立ち上げが2学期になってしまい、子どもたちの興味・関心・問題意識のもとに追究していく段階での時間を十分に保障できなかった。また、個々の情報をデジタルマップ上にまとめる方法にも工夫が足りなかったと考えている。

そこで、今年度は、このプロジェクト学習を年間のプランに位置づけ、交流校との単元プランのすりあわせを早期より取り組むとともに、子どもの学びを共有するために球体パノラマ画像とデジタルマップの融合化に取り組む。

3. 企画実践の特徴

IPX画像は、左右360°のパノラマではなく、上下の空間まで完全に実際の空間にいるのと同じイメージに再現する。しかも、その画像の中の任意のスポットポイントに、他の画像、音声、テキストなどの様々な情報を張り付け、それらをリンクすることができる。この仕組みとこれまで作成してきているデジタルマップとを融合することで、調べ学習をするうえでの情報の整理とブラウザの新しい手法を子供たちに提供できる。それによって、他地域との環境の違いを見つめる目を鋭くし、見方、考え方を広げ、深める支援になると考える。

以上のような実践は、これからの交流学习の展開の新たな支援の一つとして有効活用できるものである。

4. 参加協力校及び外部人材

山口県秋穂中学校

山口県白石小学校

山口県室津小学校

大分県富来小学校

香川県大鐸（おおぬで）小学校

Asahi Riverbasin Net-Work（外部人材のネットワーク）

5. 全体構想（瀬戸内デジタルマップ制作プロジェクト学習の展開イメージ）

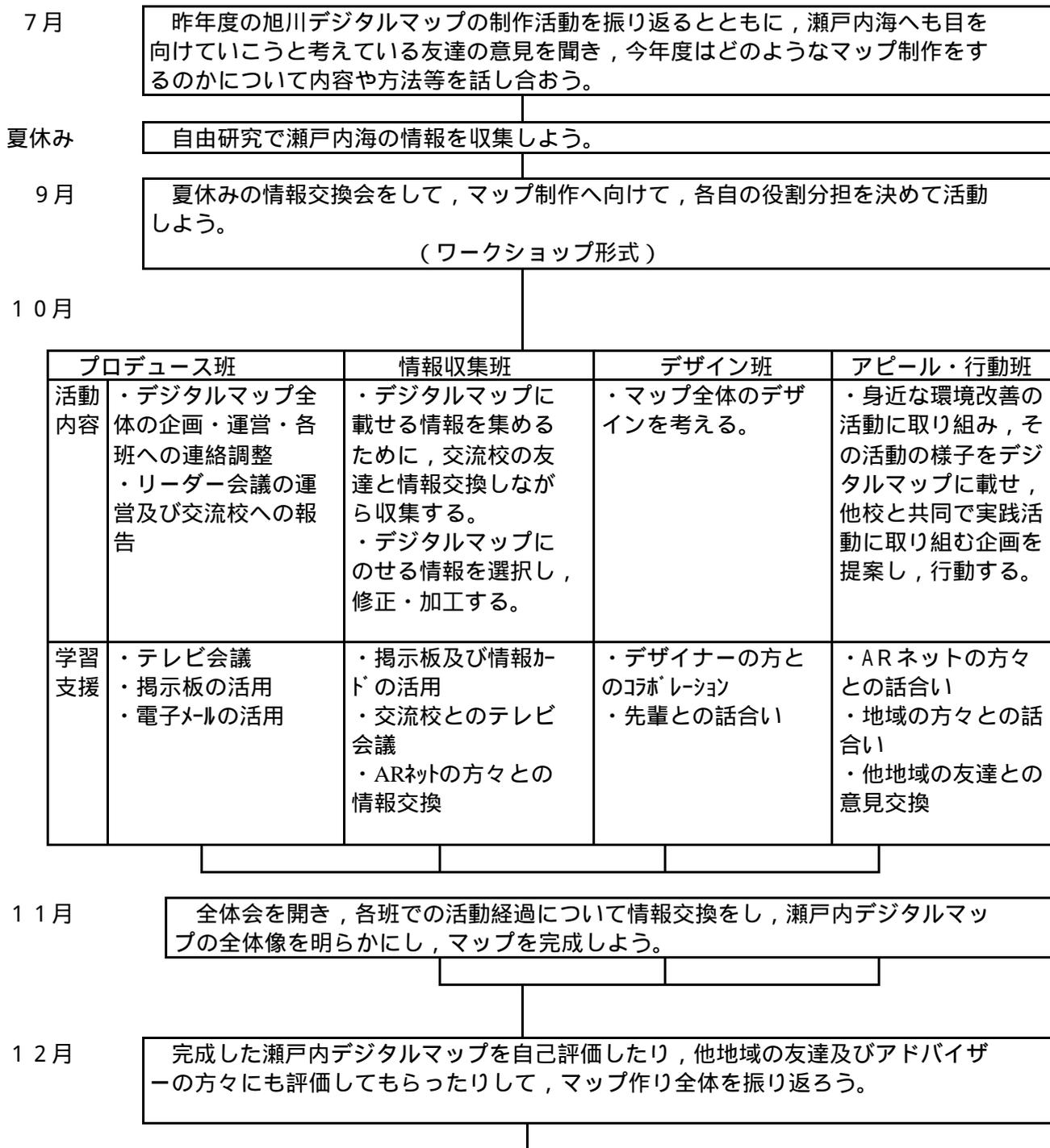
（1）テーマ：体験！探検！発見！ 瀬戸内デジタルマッププロジェクト

（2）ねらい： 瀬戸内海の自然・歴史・文化等の様々な視点から見つめ直したり、川と海のつながりに目を向けたりして、未来の瀬戸内海のあるべき姿について、自分なりの考えをもち、自分

たちが身近な環境にどのようにかかわっていけばいいかについて仲間とともに考え、思いや願いをもって行動することができる。

瀬戸内デジタルマップの共同制作活動を通じて、情報収集、処理・加工及び発信力を身につけることができる。そして、他の流域の友達と分担作業を展開するために必要となる電子掲示板の活用方法を習得することができる。また、その過程で、コンピュータやインターネットの仕組みを理解し分散・協調作業に積極的に取り組もうとする態度を身につけることができる。

(3) 学習展開イメージ



1月	瀬戸内環境会議をしよう。
2～3月	1年間の環境学習の取り組みを振り返ろう。

6. 企画の期待される成果

- ・ 旭川～瀬戸内海エリアの球体パノラマ画像を活用したデジタルマップのホームページを共同で制作
- ・ 瀬戸内海エリアの子どもたちのネットワークの構築

7. 実施内容

昨年度活用した旭川流域のネットワークから，瀬戸内キッズネットワークへと交流エリアを広げ，互いの地域情報を出し合い，異校種・異学年及び学校間格差があるなかで，どのような学習展開が可能であるか模索する。そして，郷土への愛着心を醸成させるための支援として，球体パノラマ画像を活用する。子どもの興味・関心・問題意識のもとに設定したテーマにかかわる調査ポイントの球体画像を制作し，そこへ子どもたちの収集した情報をリンクさせる。それによって，水や生き物の実態とそのまわりの環境とのつながりという視点で情報を整理させる。

8. 実施体制

(1) 実施スケジュール

時 期	取り組みの内容
4月～6月中旬	身近な環境のデータベース化 ・ 環境グループの担当教師によって，子どものテーマにかかわる調査ポイントの球体画像の制作 ・ 5，6年の環境グループの個々の興味・関心・問題意識のもとに追究活動に取り組み，収集した情報をデータベース化する。
7月上旬 ～11月	瀬戸内デジタルマッププロジェクトの取り組み開始 自分たちが作成した身近な環境のデジタルマップをもとに他地域の友達（旭川流域ネットワーク及び瀬戸内キッズネットワークを活用）と情報交換をする。そして，他地域との相違点を整理し，新たな疑問の追究活動に取り組んだり，身近な環境に対する自分の考えを練り上げたりする。そして，デジタルマップ上に情報を付加・修正し，整理していく。
11月下旬	瀬戸内デジタルマップの完成
12月	デジタルマップの評価活動
1月	瀬戸内環境会議 交流校及び身近な地域の方々・保護者及び外部人材の方々と身近な環境の改善へ向けて討論する場を設ける。
2月～3月	1年間の研究のまとめ

(2) 実施環境

球体パノラマ画像撮影用デジタルカメラ，球体パノラマ教材作成用ソフトウェア以上のものを用意する意図は，子どもたちの学習の成果である，メモ，デジタル画像，音声，ビデオを一元化してデータを蓄えておくため，球体パノラマ教材が地域素材情報を総合してまとめる上で有効であると考えられる。